

世界中のバイヤーから注目の“泳ぐ宝石”「錦鯉」 2年ぶり リアル会場で 全国規模の品評会も 開催

『第61回新潟県錦鯉品評会』（小千谷市）2021年11月6日（土）、7日（日）
『第52回全日本総合錦鯉品評会』（新潟市）2021年12月13日（月）～19日（日）

新潟県と一般社団法人新潟県錦鯉協議会は、2021年11月6日(土)、7日(日)の2日間、錦鯉の生産者による品評会としては、世界最大級の規模を誇る「第61回新潟県錦鯉品評会」を開催します。毎年、欧米・アジアなど世界各国から多くのバイヤーや錦鯉愛好家の参加があり、錦鯉発祥の地・新潟の多彩な品種と、品質の高い鯉が出品されることで有名です。また今年度は新潟県で国魚の祭典「第52回全日本総合錦鯉品評会」を実施することも決定いたしました。例年東京都で開催されていたものですが、昨年度はコロナ禍で開催できず、今回は2年ぶりのリアル会場での実施となります。この機会に本品評会をご取材いただけましたら幸いです。



【第61回新潟県錦鯉品評会 開催概要】

- 日時：2021年11月6日(土)… 一般公開(14：00～16：00) ※ご取材も可能です。事前にお問合せください。
11月7日(日)… 表彰式(11：00～)
一般公開(8：00～14：00) ※一般観覧者は参加費500円(小学生以下無料)。
- 開催場所：小千谷市総合体育館コミュニティプラザ（新潟県小千谷市大字桜町4915）
- アクセス(東京方面からお越しの場合)：
＜車＞ 関越自動車道 小千谷IC▶約2分 ＜電車＞ 上越新幹線長岡駅▶JR上越線小千谷駅からバスで15分
- 主催：新潟県、（一社）新潟県錦鯉協議会

【第52回全日本総合錦鯉品評会 開催概要】

- 日時：2021年12月13日(月)～19日（日）
公開（出品者のみ）は18日（土）9:00～17:00、表彰式は18日（土）14:30～16:00
※ご取材も可能です。事前にお問合せください。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一般の方の入場は不可。
- 開催場所：新潟県新潟市中央区鐘木185-10 新潟市産業振興センター（展示ホール）
- アクセス(東京方面からお越しの場合)：
＜車＞ 磐越自動車道 新潟中央IC▶約2分 ＜バス・タクシー＞ JR新潟駅南口▶約15分
- 主催：全日本錦鯉振興会

＜ご取材に関するお問合せ＞

新潟県広報担当（株式会社ブラップジャパン内 山口・向井宛）

TEL：080-6655-9095（直通） / FAX：03-4580-9142 / MAIL：niigata-pr@ml.prap.co.jp

Point.1 「錦鯉発祥の地」は新潟県である

1. 誕生は江戸時代

錦鯉は新潟県の中越地方、古志郡二十村郷（現在の長岡市、小千谷市、魚沼市の一部）で江戸時代後期に生まれたと言われている。

2. 地域性が生んだ偶然

当地は山間部の豪雪地帯。冬のタンパク源として飼育していた真鯉が突然変異したものが、錦鯉の起源とされている。

3. 現在に息づく伝統的な養殖法

今でも家族単位の小規模な事業者が山間の棚田で昔ながらの方法で養殖を続けているが、これは新潟県だけの特徴。



Point.2 「日本一の錦鯉生産地」は新潟県である

1. 経営体数

新潟県の経営体数は全国一であり、半数以上を新潟県が占めている。※全国：536経営体、新潟県：331経営体（H30）

2. 生産額

令和2年の新潟県の生産額は34億円以上と推定。（輸出生産者へのアンケート調査による）

3. 品種

錦鯉は100種類以上の多様な品種がいる。新潟県では殆どの種類の錦鯉が揃っており、他県にはない強み。



Point.3 「日本一の錦鯉輸出地」は新潟県である

1. 輸出額

令和2年の新潟県の輸出金額は約25億円程度と推定され、全国（48億円程度）の約半分を占めている。

2. 輸出先

輸出先は、欧州圏やアメリカなど世界40ヶ国以上であり、近年ではアジア圏向けの輸出が増加。

3. 品評会

年に一度、小千谷市で大規模な錦鯉の品評会が行われ、国内外の錦鯉愛好家が当地を訪れる。



錦鯉とは・・・？

錦鯉は、赤・白・黒を始めとし、金、銀などの鮮やかな色彩をもつ日本を代表する観賞魚である。

18世紀後半に新潟県の二十村郷（現在の長岡市・小千谷市・魚沼市）で生まれたとされている。突然変異によって色のついた鯉が生まれ、これを品種として改良したものが錦鯉のオリジンである。

その後、約200年を経て、現在、錦鯉の品種は100を超えている。

現在でも熱心な生産者の元で品種改良が続けられているが、品種の固定化は困難を極める。50万～60万個の卵の中でも、売り物になるのは、その中の僅か1%とされる。新品種ができれば良いというのではなく、その後も良いものができる確率を上げていかねばならない。

それまではひたすら選別と交配を繰り返す。

平成26年に新品種として「黄白」がデビューしたが、これも最初の誕生は平成9年であり、正式デビューまで実に17年もの年月がかかっている。



新潟県オリジナルの
品種「黄白」

新潟の錦鯉の特徴＝【多品種生産と新品種へのチャレンジ】

新潟県以外では錦鯉の「御三家」と呼ばれる「紅白・大正三色・昭和三色」を中心に生産している。新潟県においては御三家を中心に多くの品種の錦鯉を生産している。

新潟県では小規模生産者でも数種類、大手では10種類以上もの錦鯉を手がけている。長年に渡って引き継いできた系統と経験から多様な品種を作り出し、多くの生産者が、日々新品種の作出を試みている。現在、黄白を使った新品種開発にも取り組んでいる。



「御三家」

その他品種の一部



紅白



大正三色



昭和三色



丹頂



白写り



秋翠



からし鯉

元は食用だった？ 錦鯉のルーツ

発祥の地である山古志地域は山深く、棚田で稲作を行っていたが、冬期は雪で交通機能が停止するなど、食料を確保する必要があったことから、食用としての鯉を飼育する風習があった。

山古志の雪解けの地下水は稲作には冷たすぎるため、棚田の一番上の段に池を作り、いったんそこに水を貯めて水温を上げていたが、その池で食用の鯉を飼ったのが始まりである。

その後、田植えが終わった水田に稚魚を放しておき、秋に成長した鯉と米の両方を収穫するようになった。その食用の鯉がある時、突然変異を起こし、色つきの鯉に変化したのが錦鯉の始まりと言われている。

新潟の錦鯉の美しさは、中越地区山間部の厳しくも明瞭な四季によって生まれ、現在でも昔ながらの養殖方法が息づいている。

その美しさは日本のみならず多くの外国人をも魅了している。

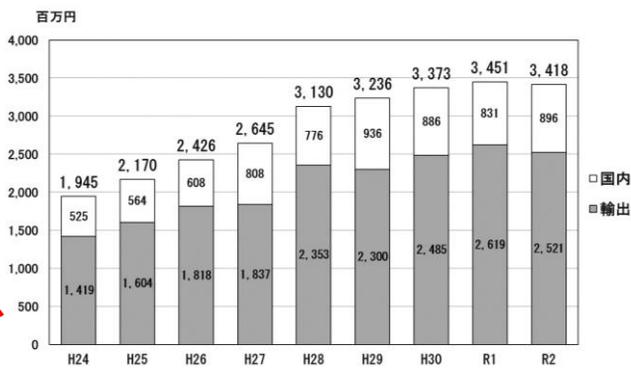


錦鯉の故郷（野池）風景

コロナ禍で、錦鯉もオンラインでオークションが開催される時代に！

今般の新型コロナウイルス感染拡大により、県外・国外から来県される仲買業者や愛好家の減少に伴い、商談の機会が少なくなる中、全日本錦鯉振興会新潟地区では、新たに非接触で販売を行うことができる3つのwebシステムを導入した。

システムの運用を開始した**令和2年には、約4ヶ月間で商談成約金額は約15億円となり、**新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する中、例年と同程度の販売金額維持につながった。



国内・海外向けの販売金額推移 (水産課調べ)

(1) 錦鯉在庫表示システム (R2.10.12～)

錦鯉の在庫をwebシステムに登録し、世界中の仲介業者や愛好家に在庫情報を共有

(2) 会員制錦鯉webオークションシステム

(1回目：R2.11.19～25、2回目：R3.2.23～3.1)
全日本錦鯉振興会の会員が生産した錦鯉の写真と動画をweb上のオークションシステムにエントリーし、世界中の仲介業者や会員に対してネットオークション販売を行う

(3) 錦鯉web品評会システム

(1回目：R2.12.14～22、2回目：R3.2.15～3.4)
世界中の愛好家が飼育している錦鯉の写真と動画をweb上の品評会システムにエントリーしてもらい、審査・受賞を行う



錦鯉在庫表示システムの販売画面

経済発展著しいベトナム富裕層への販路開拓を目指す ベトナム人スタッフ「コンさん」も就業中！

新潟県産の錦鯉は、海外での高い評価を受けて、世界各国に輸出され、中山間地域での重要な産業になっている。

そんな中で、その美しさに魅せられて、錦鯉業界に飛び込む外国人も現れている。

その一人である、ベトナム人の**ブイアンコン氏**は、元々は、土木関係の仕事で来日していましたが、コロナ禍で帰国がままならなかった際に、知り合いのついでで紹介された錦鯉の仕事に、すっぴりのめり込み、ベトナムでの販路開拓に一役買っている。

日本で数年修行して、母国に帰った後も、日本の素晴らしい鯉を求めている富裕層へ届けていきたいというコン氏。

また、コン氏が働く養鯉場の役員は、国に帰っても錦鯉の素晴らしさを、自国の国民に伝えて欲しいと期待を寄せている。



ブイアン・コン氏
※コン氏への取材も可能